

三井V-Netでの海外留学生との「一対一交流」の始まりは、関西学院大学の中国・内蒙古からの留学生、包巴特尔(ホウバトル)さんでした。包さんは中国のビール会社で3年間の社会人経験があり、関学卒業後は日本での就職を希望していたので、日本での生活で注意することや、就職事情の厳しさや国情の違いなどを中心に、今後の就職活動の指針を助言しました。その後も、自宅が関西学院大学から近いので、同大学の留学生との交流を希望していましたが、大学側事情で同校との交流支援はなくなり、2人目からは神戸大学の留学生を紹介頂きました。神戸大学では、今までに計4名の留学生との交流を行いました。

交流に際しては、面会時以外でも何か質問があればEメールで訊いてもらい、普段の生活を共にする中で日本文化を理解してもらうためにも、女房同道でショッピングモールや小旅行、食事(特に関西のB級グルメ)等、こちらも楽しみながら気楽に交流することに努めました。現在は、中国新疆出身の李博涵(リハクカン)さんと交流中ですが、彼女も上海の会社に就職が決まり来年3月に卒業後は中国で働く予定です。



Ancy Josephさんご一家と筆者(右端) ました。

今まで交流した学生は、私が台北、北京駐在経験もあるため、中国からの留学生が多かったのですが、一番長く付き合ったのは、インドからの留学生Ancy Josephさんでした。

彼女はインドで博士号を取得後、日本の国費留学生として2010年10月から2014年3月まで神戸大学に在籍しEngineering,Bio/Technology-cyanobacteriaを研究していました。在学中にインドの男性と結婚し、3年前に長女が誕生しました。彼女一家とは家族付き合いが続いており、長女のAngelinaちゃんからは「おじいちゃん」と呼ばれています。しかし、残念ながら本年10月からアメリカで働くことになり、10月2日に日本を離れてしま

彼女は、交流開始時には日本語が殆ど話せずに英語で意思疎通していましたが、今は簡単な日本語会話が出来るようになりました。しかし、彼女の一家で一番日本語(関西弁)が出来るのは娘のAngelinaでした。一家のアメリカでの生活がうまくいくように祈念しております。